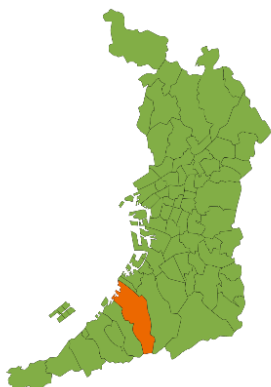


大阪府岸和田市

港湾エリアにおける持続可能なまちづくり (岸和田港まつりの企画・運営)



【活動の基本情報】

参加学生数：9名（1年生：2名、2年生：5名、3年生：2名）

活動期間：2021年5月～2023年1月

担当教員：竹林明

1. 活動実施の経緯

岸和田市の臨海部は平成31年4月に「みなとオアシス岸和田」の登録を受け、さらなる活性化を目指している。昨年度に引き続き、みなとオアシスエリアで活動することとなり、岸和田市、漁協、漁協が経営する飲食店協力のもと、Sea級グルメの開発を中心とした活動を行うこととなった。

2. 活動の内容

2022年度の主な活動は、①Sea級グルメの開発とイベント出店、②Instagramの運営、の2つである。今年度のSea級グルメの試作・販売にあたっては、漁協が運営している「きんちゃく家」に協力いただき、使用する魚を決定する段階からスタートした。当初はSea級グルメ全国大会を目指していたものの、出場条件の厳しさにより断念した。そして、岸和田市で開催される親子まつりに出店し、みなとまつりにボランティアで参加することとなった。試作にあたり、イベント出店のことを考え、食材は扱いやすさや安定した漁獲量に考慮し、選定した。試作を重ね、最終的には「しらす揚げ餃子」に決定した。中のタネには釜揚げしらすを、餃子の上には生しらすをかけることで、しらすのおいしさを最大限感じさせることができた。祭り本番は150食用意し、午前中で完売した。

Instagramの運営も昨年度に引き続き行っていたが、昨年度に比べて更新頻度が落ちてしまった。また、岸和田市の飲食店や観光スポットの紹介を今年度はやめ、LPPの活動を発信するツールとして使用した。

3. 活動を通じて

昨年度よりも多くの成果と課題が生まれる活動となった。まつりでは売れ残りを心配していた中、予想をはるかに上回るスピードで完売することができた。しかし、もう少し市場調査を行い、準備食数を増やしていればもっと利益を拡大することができたため、機会損失となったと言える。地域の方や漁協にその売れ行きを褒めていただき、LPPの活動に対して興味を持ってくださるなど、交流をすることができた。

4. 成果ポスター

岸和田港湾LPP

2022年度活動報告書

●参加メンバー

東千尋 石田響 井ノ本陽太郎 岩根慎也 西條愛理 羽生裕希 古橋康陽 藤本優衣 新田きらり

●岸和田港湾LPPについて

「みなとオアシス」を活用した持続可能なまちづくりを行っているLPPである。本年度は岸和田港振興協会設立70周年、岸和田市市制施行100周年を迎える記念の年であることを踏まえ、

①SNSでの情報発信（昨年度から継続）

②Sea級グルメの開発

③岸和田市のイベントに参加

を軸として活動を行った。



▲みなとオアシス岸和田HPより

「みなとオアシス」とは、地域住民の交流や観光の振興を通じた地域の活性化に資する「みなと」を核とした街づくりを促進するため、住民参加による地域振興の取り組みが継続的に行われる施設として、国土交通省港湾局長が登録したものをいう。

●年間スケジュール



▼Sea級グルメ

岸和田市の豊富な素材や郷土料理の中から、港湾の方々と案を出し合い、試作を繰り返した。最終的に岸和田港の「しらす」に着目し、商品開発を進めた。私たちが開発した「シラス揚げ餃子」はシラスの本来の良さを最大限引き出すことが出来たと感じている。毎回試作に行く際の人の変更したことや人数がそろわなかったため試作に時間がかかり、少人数の意見になってしまったことが試作の際の課題だと考えられる。

▲親子祭り当日

自分たちでポップを用意し、低い値段設定や店頭での声掛けをしたことで多くのお客さんを呼び込むことができ、用意していた**120食**の餃子はすぐに完売した。設営、接客に加えて、他の出店ブースの人々と交流したことでLPPの活動を広めることができた。想定より多くのお客さんに足を運んで頂けた為、販売個数を少なく見積もっていたことや準備不足でお客さんを待たせてしまったことが課題であると考えられる。



一年間を振り返って

Sea級グルメの開発を通して、市職員の方々や岸和田港湾の方々とプロジェクトを遂行することができ、同時に商品開発のプロセスを学ぶことができた。SNSの活動では、Instagramのフォロワー数を637人まで伸ばすことができ、現在も岸和田市の情報や自分たちの活動を投稿している。

(12/29時点)

課題として祭り当日の販売数の調整やSNS活動の頻度増加などがあると考え、来年の活動に生かしたいと考えている。

岸和田港湾LPP
活動情報掲載中！



合同報告会 当日の様子

大阪府岸和田市（港湾エリア）

テーマ：港湾エリアにおける持続可能なまちづくり（岸和田港まつりの企画・運営）

今回の報告会において、港湾 LPP ではただの活動報告ではなく、成果と課題をメインで提示することで我々の学びとなるよう意識した。結果的に、聞いてくださった方々からのコメントでは多くの成果と課題に対する意見をいただき、さらなる学びへと繋がった。ポスターの作成段階では、できるだけ多くのメンバーがポスター作成に携わることができるよう、ポスターの項目を細かく分けて役割分担をしたが、かえってポスターを読みづらくさせてしまった。パソコンの画面で見る印象と、実際にポスターに印刷した時の印象の違いが分かった。

また、大浦先生からグルメ開発のコツについての質問を受け、評価をいただくことができた。フィードバックコメントの中には、「商品開発から販売まで、地元関係者の協力を得ながら一連の流れを学習できたことが良いと感じた。」というコメントがあり、まさに私たちが最も学ぶことができたことのひとつであったため、聞き手に我々の意図が伝わっていたことを実感した。今回の報告会は、活動を行うだけで済ませず、アウトプットを行うことで客観的な評価をいただけた良い機会となったと思う。

